

内分泌代謝科

1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

科 長（教 授） 石橋 俊
 副 科 長（准 教 授） 大須賀淳一
 外来医長（講 師） 岡田 健太
 病棟医長（病院助教） 岡田 修和
 医 員（学内准教授） 長坂昌一郎
 （助 教） 安藤 明彦
 （助 教） 永島 秀一
 病院助教 出口亜希子
 高橋 学
 シニアレジデント 9名

2. 診療科の特徴

内分泌代謝疾患のうち内科領域で診療すべき疾患群を中心に診療を展開している。外来診療においては糖尿病の血糖管理と合併症予防の占める比重が高い、次いで各種甲状腺疾患（Basedow病、腫瘍）の治療が多い。

入院診療もほぼ同様であるが、糖尿病の血糖コントロール不良例に対するインスリン・GLP-1アナログ製剤による治療導入、急性合併症である高血糖昏睡・足壊疽等の感染症治療・進行した腎症に対する透析前後の全身管理、周術期・妊娠中の血糖コントロール等が糖尿病関連の入院目的として多い。内分泌疾患の中ではBasedow病が多くその入院目的として、放射性ヨード内療法が多い。

腫瘍性内分泌疾患の確定診断と手術治療適応決定を目的に入院する疾患として、原発性副甲状腺機能亢進症、原発性アルドステロン症、下垂体腺腫（Cushing病、先端巨大症、非機能性）等が多い。

2012年度に参加した主な多施設共同研究には、「糖尿病予防のための戦略研究 課題3（J-DOIT3）：2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験」、「糖尿病における合併症の実態把握とその治療に関するデータベース構築による大規模前向き研究」（JDCP）、糖尿病性腎症の寛解を目指したチーム医療による集約的治療（DNETT-JAPAN）、早期糖尿病の進展抑制に関する無作為化比較臨床試験（JEDIS）、糖尿病網膜症合併高コレステロール血症患者を対象としたスタチンによるLDLコレステロール低下療法の比較研究（EMPATHY）、高LDLコレステロール血症を有するハイリスク高齢患者（75歳以上）に対する、エゼチミブの脳心血管イベント発症抑制効果に関する多施設共同無作為化比較試験（EWTOPIA75）、家族性高コレステロール血症に対する脂質低下療法の有効性および安全性に関する調査 -FAME Forum- 等がある。

・認定施設

日本糖尿病学会認定教育施設
 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
 日本肥満学会認定肥満症専門病院

・認定医

日本内科学会認定内科医 石橋 俊
 他11名
 日本内科学会総合内科専門医 石橋 俊
 長坂昌一郎
 大須賀淳一
 倉科 智行
 日本糖尿病学会専門医 石橋 俊
 他8名
 日本糖尿病学会研修指導医 石橋 俊
 長坂昌一郎
 岡田 健太
 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 石橋 俊
 長坂昌一郎
 岡田 健太
 安藤 明彦
 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）指導医 石橋 俊
 長坂昌一郎

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数 1,007人
 再来患者数 34,605人
 紹介率 62.6%

2) 入院患者数（病名別）

病 名	患者数
糖代謝異常	
糖尿病	484
病型分類	
1型糖尿病	54
2型糖尿病	418
その他の糖尿病	18
主な合併症	
急性合併症	26
妊娠	11
足病変	13
感染症	85

慢性肝疾患	238
慢性腎不全	28
悪性腫瘍	108
虚血性心疾患	61
低血糖	22
脳血管障害	67
ネフローゼ	17
精神疾患	25
妊娠糖尿病	62
甲状腺・副甲状腺疾患	
Basedow病	50
慢性甲状腺炎	2
甲状腺腫瘍	1
原発性副甲状腺機能亢進症	3
副甲状腺機能低下症	1
偽性副甲状腺機能低下症	1
副腎疾患	
副腎偶発腫	32
Cushing症候群（副腎外原発含む）	4
Preclinical Cushing症候群	4
副腎皮質機能不全	3
原発性アルドステロン症	25
褐色細胞腫	2
視床下部下垂体疾患	
非機能性下垂体腫瘍	2
汎下垂体機能低下症	4
先端巨大症	8
プロラクチノーマ	2
尿崩症	2
汎下垂体前葉機能低下症	11
ACTH単独欠損症	1
性腺機能低下症	2
電解質異常	
低ナトリウム血症	5
高カルシウム血症	1
高血圧症	17
脂質異常症	2
摂食障害	2
高度肥満症	9
るいそう	1
低血糖	2
高ガストリン血症	1
月経不順	1
骨粗鬆症	1

3) 手術症例病名別件数

(内分泌疾患の診断後に外科的治療を受けた症例について記す)

甲状腺・副甲状腺疾患

Basedow病 1

原発性副甲状腺機能亢進症 3

副腎疾患

Cushing症候群 3

Preclinical Cushing症候群	3
原発性アルドステロン症	7
副腎偶発腫	4
視床下部下垂体疾患	
先端巨大症	2
非機能性下垂体腫瘍	2
プロラクチノーマ	1
高度肥満	
袖状胃切除	4
計	30

4) 治療成績

5) 合併症例

6) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

死亡症例数 0

剖検数 0

7) 主な検査・処置・治療件数

糖代謝異常

急性合併症（ケトアシドーシス、ケトーシス、高血糖

高浸透圧昏睡）に対する処置・治療 24

糖尿病性足病変に対する処置・治療 13

甲状腺・副甲状腺疾患

Basedow病に対するアイソトープ治療 40

巨大甲状腺腫に対するアイソトープ治療 1

副腎疾患

各種副腎疾患に対する内分泌学的検査

副腎偶発腫 33

Cushing症候群（副腎外原発含む） 4

Preclinical Cushing症候群 6

原発性アルドステロン症 25

褐色細胞腫 2

視床下部下垂体疾患

各種視床下部下垂体疾患に対する内分泌学的検査

非機能性下垂体腫瘍 3

汎下垂体機能低下症 3

先端巨大症 8

プロラクチノーマ 2

尿崩症 2

成長ホルモン分泌不全症 1

汎下垂体前葉機能低下症 8

ACTH単独欠損症 1

性腺機能低下症 2

8) カンファレンス症例

(1) 診療科内

2月8日 低血糖症

2月15日 1型糖尿病におけるインスリン調整の考

え方

2月22日	糖尿病自律神経障害
2月29日	中枢性尿崩症／心因性多飲症
3月7日	原発性アルドステロン症
5月9日	続発性副腎機能不全
5月30日	先端巨大症
6月6日	橋本病急性増悪
6月27日	Ca/P代謝と偽性副甲状腺機能低下症
7月4日	高血糖高浸透圧症候群
9月5日	糖尿病とCKD
9月12日	高ナトリウム血症
9月12日	中枢性塩類喪失症候群
10月3日	高ガストリン血症
10月3日	インスリン受容体異常症
11月7日	発熱性好中球減少症
11月14日	副腎偶発腫瘍
11月28日	尿崩症
12月5日	SPIDDMとLADA
12月19日	糖尿病網膜症

(2) 他科との合同

内科モーニングカンファランス

1月24日	頭痛、ふらつき、月経異常
2月2日	なし(副腎偶発腫)
2月23日	意識障害
3月13日	悪心、嘔吐
4月26日	頭痛
6月26日	めまい、動悸
9月11日	発熱、前頸部痛
9月24日	食欲低下、全身倦怠感
10月18日	意識消失
11月5日	意識障害
11月13日	高血糖
12月11日	意識障害

糖尿病センター合同カンファランス

3月16日	膵臓移植の現状
7月6日	アメリカの医療システムと糖尿病診療
9月26日	糖尿病腎症のチーム医療を考える
12月7日	食事療法

4. 事業計画・来年の目標等

- 1) 内分泌代謝疾患の診療は多くの診療科の協力なしには推進し得ない。例えば糖尿病性網膜症は眼科、糖尿病性腎症は腎臓内科、虚血性心疾患は循環器内科、足壊疽は整形外科・皮膚科、甲状腺・副甲状腺疾患は内分泌外科、副腎疾患は消化器外科・泌尿器科、下垂体疾患は脳外科等である。引き続きこれら診療科との連絡を密にとってよりよい診療体制を築いていきたい。2009年度からは糖尿病センターが

発足した。2012年度は合同カンファランスを計4回開催し、引き続き当該疾患へのチーム医療を充実させていきたい。

- 2) 診療面では、新たな薬物の登場等に伴う治療法の進歩はみられるが、疾患の治癒をもたらすような画期的な先進治療に乏しいのが当該領域における医療の現状であり、問題点でもある。移植医療、再生医療、遺伝子治療等の臨床応用の機が熟したならば、積極的に新規治療の開発と導入とに取り組んでいきたい。
- 3) 糖尿病の蔓延防止とその合併症予防対策は昨今の医療行政の大きな柱のひとつとなっている。「糖尿病対策推進協議会」が設置され、糖尿病協会栃木県支部の事務局でもある当科にも、この方面への貢献が期待されている。